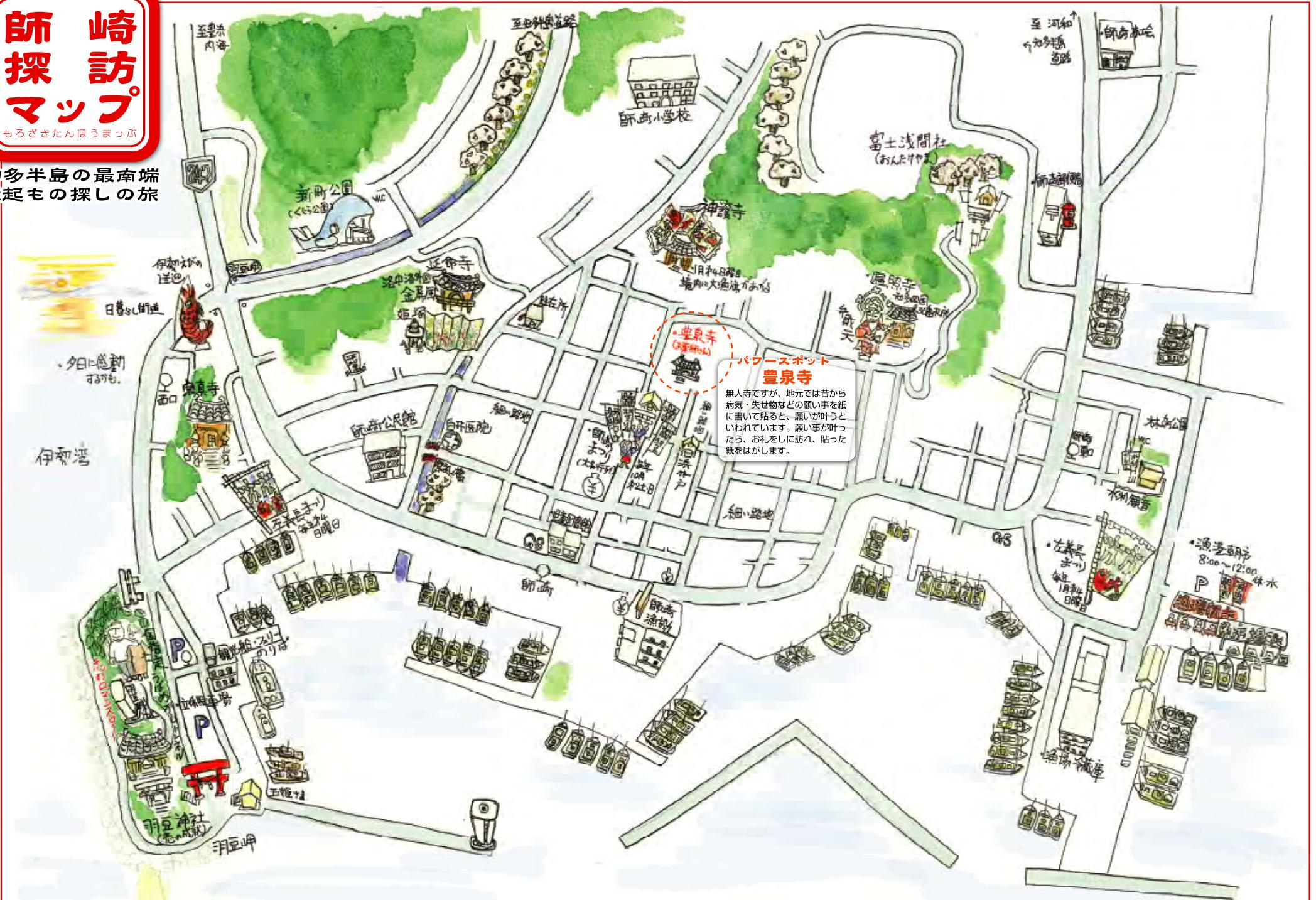


崎訪師探マップ

もろざきたんほうまっぷ

知多半島の最南端 縁起もの探しの旅

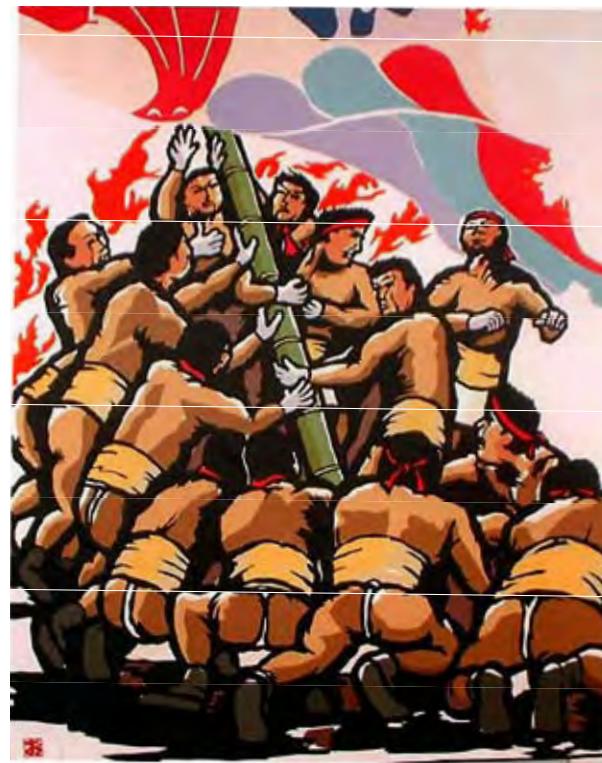


師崎の伝統行事



羽豆神社例大祭

羽豆神社例大祭(別名・師崎祭り・潮時祭り)は、10月の第2土・日曜日に行なわれる神輿渡御神事です。この祭礼がいつ頃から始まつたのか詳らかではありませんが、御神輿の台に天文20年(1551)に修理とある事から、少なくともそれ以前であると思われます。南北朝時代、熱田神宮大宮司家の居城があつた事、また、熱田神宮の祭礼行事によく似ている点がある事から14世紀前後にはあつたと思われます。御神幸の前を各字の奴行列、大名行列が先導し、神社本殿から御旅所へ御神輿を遷す形態が始まつたのは、おそらく江戸幕府が参勤交代を制度化した寛永12年(1635)以降と思われ、尾張藩船奉行千賀忠摩守が敬神崇拝、領地安穩、大漁満足、五穀豊穣を祈願するために仕立て、御神幸に先がけたのではないかといわれています。



左義長まつり

左義長は、一般には「どんど焼き」とも呼ばれています。1月の第4日曜日に行なわれ、正月の松飾りやメ縄、また古いお札さんやお守りを村境に集めて、お焚き上げする行事です。村々によってその形態は異なり、祭りとして発展したものが今日も受け継がれているようです。轍に象徴される師崎の左義長は、25才の厄男を始めとする裸姿の若衆が、10メートルにもおよぶ大轍をどんど焼きの中に倒したり、起こしたりして祝います。轍には干支や、めでたい判じ絵が描かれていますが、上部にはメ縄が描かれ、轍自体がご神体だとも考えられています。轍と幡は同意義で、幡は幡豆(羽豆)神社の幡を意識したものであり、幡豆崎とも呼ばれた師崎の誇りを表した祭りです。師崎の左義長は、本来小正月(旧暦1月15日)の行事で、潮の引いた浜辺で行なされていました。その起源は、室町時代に逆のぼるともいわれていますが、定かではありません。祭りには轍の脇役ともいえる竹と紙で作られた小舟が登場しますが、軍艦とも呼ばれており、日露戦争の戦勝記念で加えられたのではないかと思われます。船にも去年の船玉をはじめとするお札が積まれ、どんど焼きと同じ様に火が付けられ、若衆に担がれて轍の回りを3周して海に放たれます。現在、若衆の減少により、小学生が小轍を作つて参加するなど祭りも変化しようとされていますが、昔と変わらず感謝・無病息災・大漁満足・商売繁盛・学業増進などの祈りを込めて行なわれています。



発行
南知多町師崎観光協会・南知多町師崎商工会
お問合せ
南知多町観光案内所 TEL:0569-62-3100